

一般社団法人 薬学教育協議会

令和3年度実務実習の良い事例集 (項目別)

－ 施設について －

(令和3年2月22日～令和4年2月13日)

目 次

薬局実習

薬物療法の実践	3
在宅医療における薬物療法の実践	3
医療連携の体験	5
チーム医療の実践	5
地域包括ケアの実践	6
災害時医療の体験	7
協力薬局とのグループ（他施設）実習の実施	7
充実した実習環境と指導体制の構築	8

病院実習

薬物療法の実践	14
医療連携の体験	14
医療機関におけるチーム医療の実践	15
充実した実習環境と指導体制の構築	15

凡 例

◇ 大学・学生側から見た良い事例を集めました。

◇ 大学名：非公開

◇ 記載事項：

- 区分：病院、薬局
- よい実習を行った各施設の特徴（見出し）
- 具体的な説明（概要）及びまとめ

◇ 実務実習実施日程（原則）

第Ⅰ期：令和3年2月22日（月）～5月9日（日）

第Ⅱ期：令和3年5月24日（月）～8月8日（日）

第Ⅲ期：令和3年8月23日（月）～11月7日（日）

第Ⅳ期：令和3年11月23日（月）～令和4年2月13日（日）

*新型コロナウイルス感染症の影響により、状況に応じて日程を変更して実施しております。

—薬物療法の実践—

【実習第1週からのカウンター業務経験】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に注意し、第1週に服薬指導を経験することにより、薬剤師としてのやりがい、情報のつながりに対する意識の深まり、安全な薬の使用に対する責任感を実感した。

【地域連携により患者に最適な医療を提供できた例】

糖尿病クリニックと大学病院に通院しており、医療機関により薬局を分けていたため、多剤服用によると考えられるアドヒアランス不良が問題となっている患者がいた。当該薬局での服薬指導時にこれらの問題に気づき、薬剤の必要性について検討するとともに、お薬カレンダーを作成する等して、アドヒアランス向上に向けた取り組みを行った。クリニックには情報提供書を作成し、報告した。また、殆ど服薬できておらず、減薬可能と思われる薬剤があったため、大学病院へポリファーマシー検討依頼書を送信した。その後、処方内容が変更され、アドヒアランスが向上し血糖コントロールも改善された。

学生の顕著な成長：

薬物療法について深く理解するとともに、患者にとって最適な治療を考える重要性を学んだ。

【対人業務に関する内容を中心とした実習】

コロナ禍であっても十分な感染対策を行って患者さんと接する機会を確保して頂き、患者さん個々の背景を考慮した指導の重要性を実体験できた。

【外来化学療法を受ける患者に対する薬学ケアの実践】

外来化学療法を受ける患者への薬学ケアを実践し、学習することができた。

【段階的な服薬指導実習】

服薬指導を行う数週間前から薬歴を見て投薬時に聞くべき内容について考える課題に取り組んだことにより、服薬指導時に聞くべき内容を速やかに思い出し、説明時に活かすことができた。

—在宅医療における薬物療法の実践—

【コロナ禍中の在宅医療】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に注意し、患者の協力のもと、在宅訪問の実習を行った。

【新型コロナ禍での在宅医療実習】

新型コロナウイルス感染拡大状況下で在宅医療に関わる機会を提供ができる薬局が少なかった中、実習開始初期のころから在宅医療に毎日同行し、在宅医療の体験学習を十分に行うことができた。

【在宅・学校薬剤師などの地域包括ケアにおける様々な薬局業務への参画】

在宅診療を実施している医師、看護師とともに訪問診療に同行し、患者の様子を観察したり、話しを聞いたりし、地域における薬局の重要性を体感することができた。

【在宅医療】

認知症患者宅への訪問薬剤管理指導に同行し、問題点を考えて服薬支援を行った。

【在宅医療】

施設入居中の緩和ケアを受ける患者に対し体調の確認や服薬指導を行った。医師、訪問看護師、ケアマネージャー、施設の職員との多職種でのカンファレンスも参加し、薬剤師による処方提案の重要性について理解が深まった。

【在宅医療】

実習開始初期から在宅訪問に同行させていただき、多くの経験を積むことができた。また、生薬を用いた漢方調剤を主として行っている薬局での実習も実施させていただき、実習期間を通じて多岐にわたる学習ができた。

【在宅医療】

緩和ケアをしている患者宅への訪問薬剤管理指導に同行し、問題点を考えて服薬支援を行った。

【実習の早期より複数回の往診同行や担当者会議へ参加させていただいた例】

実習 2 週目から往診同行を見学し、医師が体調を伺う、聴診、眼の確認、リンパ節と甲状腺の確認、浮腫の確認等々を実施し、看護師が採血、血圧測定、診察の介助等々を行い、薬剤師が処方監査、医師への提案（例.代替薬）、施設スタッフへの説明等々を実施する様子を間近で経験できた。学生は、薬剤師が往診に同行することのメリット（例.疑義照会の回数が減る、施設スタッフへ変更薬の説明（剤形特徴等）等々）について深く考察しており、眼の確認は何のために行っているか調べるなど、実習後にも勉強している様子が伺えた。

8 週目には介護施設の患者さんの担当者会議にも参加し、これからの施設生活において必要なことの確認を各職種（介護施設スタッフや薬剤師等）が行い、施設で出来ることを明らかにして患者や家族の了承を得たり、出来ることを明らかにすることで患者やその家族の安心にも繋がったりすることを知ることが出来ていた。ケアマネージャーや介護施設のスタッフ等との連携（話し合い）でどんなことを議論する必要があるのか等、担当者会議への参加を通して理解できた様子であった。

学生の顕著な成長：

実習後の学生からの言葉「特に往診同行では、患者と医師の実際のやり取りや往診同行での薬剤師の活躍を目の前で見れたことで、より薬や処方意図、薬剤師の役割についての理解が深まったと思います。この薬局実習で学んだ様々なことを病院実習でも生かせるように、これからも頑張りたいと思います。」早期に往診同行等を見学することで、薬剤師の活躍について間近で経験でき、実習に対するモチベーションの向上にも繋がった例と考えられます。

—医療連携の体験—

【地域連携により患者に最適な医療を提供できた例】

糖尿病クリニックの医師・スタッフとの信頼関係が構築されており、医師らと週1回の勉強会（カンファレンス）がある薬局であった。患者の同意も得たうえで、クリニックで得た血液検査データ等も確認できるようになっていた。データおよび投薬時の会話から、用法用量が適切かを検討しており、実際、用量を減らすことが出来た患者もいた。

【外来化学療法における病院と薬局との連携】

外来化学療法実施患者に対する業務を体験し、外来化学療法における病院薬局間連携の重要性を学ぶことができた。

【トレーシングレポートによる医薬連携】

服薬指導時の聞き取りをもとにトレーシングレポートを作成し、服薬状況について医師に情報提供を行った。

行し、問題点を考えて服薬支援を行った。

—チーム医療の実践—

【医薬分業の黎明期に、医師との信頼関係を築いた経験とその後の地域での医薬分業の進展についての解説】

実習体験ではないが、院外処方箋発行を考えた医師（皮膚科）が、薬剤師に診察室で診療の見学をさせ、診断・薬の選択等について一定の共通認識を持つことを確認した上で、地域への院外処方せん発行に踏み切り、その後の地域での分業の拡大・定着に至った経緯の解説があった。チーム医療を考え体験する場合は、薬局にもあることを認識できた。

学生の顕著な成長：

医薬分業は決して当たり前前の制度ではないこと、医療従事者の信頼関係とは何かについて学生に気付かせ、在宅医療への参画も信頼関係の構築に重要な意味があることを考えるために貴重な機会であった。

【緩和ケアチームによる患者との関わり】

緩和ケアチームで1週間毎日同行して実習を行った。この1週間を通じて、緩和ケアは痛みの治療だけでなく、精神的なストレスや不安を取り除くことに重きを置いていることを感じる事ができた。

【医師への情報提供及び処方提案】

コントロール不良の喘息患者に対して医師への情報提供と処方変更の提案を行い、その提案が受諾された。この体験を通して、他職種連携の重要性を学習することができた。

【在宅医療における遠隔実習】

在宅に関する多職種連携についてオンラインの会議に参加することが出来、コロナ禍においてもチーム医療において体験することができた。

—地域包括ケアの実践—

【在宅・学校薬剤師などの地域包括ケアにおける様々な薬局業務への参画】

自宅への在宅業務、学校薬剤師・地域での薬剤師活動等の幅広い薬局業務に参画し、地域包括ケアにおける薬局の重要性を体感することができた。

【在宅・学校薬剤師などの地域包括ケアにおける様々な薬局業務への参画】

介護施設や老人ホーム、自宅への在宅業務、学校薬剤師・地域での薬剤師活動等の幅広い薬局業務に参画し、地域包括ケアにおける薬局の重要性を体感することができた。

【地域における薬局薬剤師の役割を実感できる実習】

患者やその家族から介護用品やケアマネージャーの選び方などに関する質問を受け、実際に薬剤師がケアマネージャーに連絡する姿をみることで、地域における薬局薬剤師の役割について体感することができた。

【学校薬剤師などの地域包括ケアにおける様々な薬局業務への参画】

コロナ禍のなか感染対策をして学校薬剤師の業務に参画し、地域包括ケアにおける薬局の重要性を体感することができた。

【地域包括支援センター主催の「介護者の集い」に参加し、薬剤師が薬局内にとどまらず、地域の中へ自ら飛び込んでいく必要性を実感した事例】

地域包括支援センターである五香松飛台高齢者いきいきセンターが主催で開催されている「介護者の集い」に指導薬剤師と伴に、2ヵ月連続して2回参加した

- 介護度の高低に関わらず、個々の事例ごとに異なった苦悩があることを知り視野が広がった
- 実習生自身の要介護3の祖父に関する介護の悩みについて相談できた体験から、介護者の悩みの解決策や解決への糸口を見つけるために、これら活動の重要性を肌で感じる事ができた
- 調剤室にこもっていても地域における問題を知り得ない。薬局の外に出て介護者の集いに参加することで薬剤師として、医療従事者として地域住民の健康な生活の確保のための活動の必要性を実感した。

学生の顕著な成長：

自身が薬剤師となった際の将来像として、カウンターや電話越しで患者の対応を親身に行うことだけでなく、真に「地域密着」を目指し地域に飛び込んだ活動をしたと具体的な活動目標を見出すことができた

【地域住民に向けた説明会】

地域住民の健康支援を目的に、実習生がオンラインで地域高齢者に向けて説明会を行った。

参加者から薬や疾患に関することや、コロナ禍における生活などの質問があり、オンライン開催ではあったが交流を深めることができた。

なお、この説明会は、コロナ禍で説明会が中止・延期されるなど直前まで開催日が確定されず、薬局実習期間終了後の病院実習期間に開催されることになった。受入れ施設（病院）に事情を説明し、病院実習の指導者と協力して実習スケジュール調整やオンライン開催準備が実施できた事例である。

【地域に根差した薬局】

〇〇薬局で実習する中で、こんなにも地域に根差し、患者さんにも親切な薬局があるのだということをつくづく実感しました。これからさらに高齢化社会が深刻になることも考慮すると、100歳体操のように高齢者が集まって会話しながら体を動かしたり、達成感を得られるようなイベントを催すことが大事になってくると思います。薬局が地域に深く関わることができたら、患者さんも病気や薬の相談をしやすくなりセルフメディケーションや必要な時には受診を提案できるので地域包括ケアが充実すると思いました。実際に〇〇薬局でも近所の方が薬の相談をしに来たり、ご近所付き合いがとても良く、先生の地域の人とのかかわり方が非常に勉強になりました。

—災害時医療の体験—

【災害時医療の理解に向けたエリア研修会の実施】

災害時医療の研修として、地区合同の研修会を実施。内容は、東日本大震災発生時の初動のビデオ視聴で実際の様子を伝えるとともに、災害に関する基礎知識やJMAT、フィジカルアセスメント方法等の説明をすることで、災害時医療とはどのようなものかや、薬剤師に期待される役割が実習生によく伝わったことと思います。

また、座学形式に留まるのではなく、「実習先の薬局が被災した」と仮定してどのように行動するべきかのディスカッションを実施することで災害時医療について自ら考える機会になったと思います。
学生の顕著な成長：

災害や災害時医療について知識として学べた。薬剤師の心構えを醸成することにつながった。コロナ禍のためオンライン（ZOOM）での実施となり、今後に向けての課題もあったとのことですが、実施していただけたことで実習生が得たものが多くあったのではないかと感じました。

—協力薬局とのグループ（他施設）実習の実施—

【グループ内の薬局間での連携体制が整った施設】

お互いの実施不十分な実習内容（在宅等）をグループ内で共有し、施設間で連携し実習を実施して頂いた。

【グループ薬局や医薬品卸との連携実習】

普段実習を行っている薬局だけでなく、グループの薬局の他店舗や医薬品卸の店舗に行って実習を行うことができ、それらの店舗との連携も含め様々な業務を学習することができた。

—充実した実習環境と指導体制の構築—

【吸入指導へのかかわりからの学び】

吸入器は種類が多く、使い方が異なっているので吸入器ごとに説明する内容が異なることを学びました。自力で吸入ができる患者さんには、自分のタイミングで吸入する吸入器（DPI）が適しているが正しく使えるか確認が必要なので、服薬指導で実際に患者さんに練習用のものを使って吸入していただいて確認することが大切だと感じました。吸えているのかわからない時でも、新しい薬はセットせずにもう一度吸入するように指導することを学びました。自力で吸入が難しい患者さんには、ボタンを押すタイプの吸入器（pMDI）が適しているがタイミングが合わなければ正しく吸うことができないという問題にも繋がることを学びました。

【高額療養制度の仕組みの理解】

高額な医療費を支払ったときに、高額療養費制度により払い戻しが受けられる。また、限度額適用認定証を保険証と併せて医療機関等の窓口で提示することで、1ヶ月、窓口でのお支払いが自己負担限度額までになることを学んだ。

【支持療法の大切さの学ぶ】

支持療法は、単に副作用を取り除くだけでなく、予防をすることも含み、患者さんのQOLを上げることにつながると学んだ。

【他職種連携の重要性を学べた一例】

大学では学べないような、地域の介護関係職種とのつながりや、実際に在宅に行っている薬剤師さんの葛藤などを聴けたこと。

- 地域の総合病院の門前だったので、一つ所で様々な処方について学べた点。学生が店舗間に移動することもなくじっくり、薬剤師の先生方と関係性を築けたのは個人的に良かった。
- 若い薬剤師の先生が多いが、指導薬剤師の先生は老熟していて、視点が違っていた。その面も含め勉強になった。
- 施設全体で育てようという意識があった。

学生の顕著な成長：

他職種連携を学ぶことができて地域医療への理解が深まった。一つの処方についていろいろな見方があることを理解した。

【実習生に寄り添った実習】

似た処方が多かったため全くわからない状態からでも薬局の業務を学びやすかったことと急性疾患が多かったため患者さんの経過を観察し薬物治療の効果判定といったことが行いやすく勉強になったこと、また限られた中で扱える頻度の少なかった疾患に関してはフォローをしていただいたなど実習生に寄り添った実習を行ってくださったこと。

学生の顕著な成長：

医薬品の効果判定について勉強ができ、薬剤師の役割の重要性を認識できた。

【病気だけではなく人間としてみることを学べた実習】

地域の薬局間での連携があり、1 つだけの施設では経験や見ることの出来ないことまでカバーしてくれた。

現状と将来について教えてもらえる機会があったので今後の在り方について考えることができた。一緒に患者さんがどうすれば良くなるか考えてくれた。

学生の顕著な成長：

患者さんについて、病気だけではなく人間としてみることを教えてもらいとても成長した。

【一般用医薬品等の販売における来局者対応について、地域内数店舗で割り振り受入れにより 3 日間の実習実施をしている例】

●●市内薬局にて実習の学生に対し●●市薬剤師会が OTC 実習希望調査を実施し、希望する実習生を●●市内の〇〇薬局数店舗へ割振り、3 日間の一般用医薬品等の販売における来局者対応実施を実施している。実習に先立ち「レクチャー」と称して来局者対応に関する概論の説明が ZOOM にて開催される。その後、実際店舗での実習を行う。1 日終了時点でその日の対応事例を薬剤師会へ報告する、OTC 実習担当者がその対応についてフィードバックを行い、次回実施時への心構え等を指導を行っている。2 日目は1 日目のフィードバックやアドバイスを踏まえて同様に対応⇒報告書提出⇒フィードバックを行う。それらを繰り返すことで、3 日間の実習ではあるが大変価値ある時間を過ごすことができている。3 日間の一般用医薬品対応実習が終了すると OTC 実習に参加した実習生+その指導薬剤師+●●市薬剤師会研修委員が参加して「カンファレンス」を実施する。各々の対応事例から 1 例を発表しその対応について情報共有+指導薬剤師等からのアドバイスを受ける。こちらの「カンファレンス」に関しても ZOOM を活用し、効果的な人数でのディスカッションが可能になるようブレイクアウトルームを設定し効果的な人数で実施している。

学生の顕著な成長：

実際に来局者からの相談を受けることで様々な対応が考えられる中から自身で決断し行動することで、机上とは異なり深い学びとなっている。また、カンファレンスが実施されることで、より多くの事例に触れることができ、幅広く理解が進んでいる。

【Zoom による多店舗薬局合同の実習発表会】

Zoom を用いて、多店舗薬局合同の実習発表会を行った。新型コロナウイルス感染拡大状況であるが、普段通りに実習発表会を実施し、大学教員も実習発表会に参加することができた。

【zoom】

保健所で働く薬剤師さんに zoom にて業務内容を伺うことができた。

【zoom での SGD】

他の大学の学生さんと SGD を行い、いい刺激を受けた。自分の頭では思いつかないような意見も飛び交い、楽しく行えた。

【実習中に生じた疑問について、調査や実験を行い、解決策を導き出すことができた。】

皮膚科からの軟膏M I Xの処方について、指導薬剤師との協議の上で、配合変化について文献調査する機会を得た。調査の結果、長期保存した場合に残存量の減少することを発見したため、指導薬剤師と共に処方元の医師に疑義照会をした。

内科からの処方にpHの変動で吸収が抑制される医薬品が含まれていた。指導薬剤師からの提案で、他剤と合わせたときのpH変化について実験をする機会を得た。一部の薬剤に対して回避すべきであるとの結果を得た（学会にて発表予定）

【アルコール依存症予防】

来局者にアルコール依存症のアンケート調査と指導を実施し、健康増進の重要性を考えることができた。

【系列内薬局実習生どうしの情報共有】

実習生が系列他薬局の実習生に実習施設で1週間に学んだ内容を伝える為、実習内容を整理する事ができ実習内容への理解を深める事ができた。

またこれとは別に、1週毎に交代で実習生自らテーマを考え交互にプレゼンテーションを行う事とおし実習に能動的に取り組むことができた。加えて人に分かりやすく伝える工夫について考える事ができた。

【コロナ禍での体験・研修・見学中止を補う薬局内研修会】

コロナ禍の状況で学薬体験、集合研修、卸見学ができない分、薬局内で講習研修会をどんどん行ってきた。

【在宅・学校薬剤師などの地域包括ケアにおける様々な薬局業務の補完】

薬剤師会の座学ビデオが充実しており、臨地実習できないところが、補完できた。

【オンラインツールを用いた発表会兼グループ協議会の開催】

オンラインツールを用いた薬局実習の発表会兼グループ協議会を実施したことにより、複数の薬局、病院、大学が出席可能となり、コロナ禍での実習の問題点やその解決方法についてなど、有意義な意見交換等を実施できた。

【オンライン会議システムを用いた連携体制】

実務実習施設を直接訪問するのではなく、コロナ感染症の拡大状況に合わせて、適宜、WEB会議システムを用いて、面談・連絡等を実施した。WEB会議システムを用いた大学ー実習施設間の打合せや相談・面談は、対面の面談と比べても遜色なく行うことができ、面談ツールとして有用であった。

【他店舗実習への切り替え】

薬局薬剤師の家族がコロナ感染で、その職員が PCR 検査となった。その後、3 日間遠隔実習となったが、その遠隔実習までの間の実習が他店舗実習となった。他店舗実習は 1 日ではあったが、スムーズな他店舗実習への切り替えが行われた。

【在宅・学校薬剤師などの地域における様々な薬局業務への参画】

コロナ禍の薬局実習であったが、指導薬剤師の工夫により、介護施設や老人ホーム、自宅への在宅業務、学校薬剤師・地域での薬剤師活動等の幅広い薬局業務に参画し、地域における薬局の重要性を体感することができた。

【他大学との学生との連携】

他大学の学生と一緒に実習を受けることにより、協力して課題を行い討議することができた。そのため、実習に対するモチベーションを高めることができた。

【学生の要望を取り入れた実習を行う施設】

実習の後半に学生にやりたいことを確認し、服薬指導をもっとやりたいという学生に対し指導実践の回数を増やし経験を積ませることで学生が主体的に実習に取り組むことができた。

【休日診療所での体験】

休日診療所での業務体験を実施し、地域医療や多職種との連携について理解を深めることができた。

【実習中に生じた疑問について、調査や実験を行い、解決策を導き出すことができた。】

潰瘍性大腸炎治療薬と飲料との配合変化について、実験する機会を得た。溶解度と pH の関係を調査し、飲み合わせの悪い飲料を特定した（学会にて発表予定）。

【在宅医療】

小児 TPN の無菌調製を見学し、処方監査や薬学管理について学んだ。

【薬局薬剤師に対する社会のニーズを考えるきっかけとなった実習】

コロナ禍の実習において、ワクチン接種に関連する業務に参加し、これまでにない経験を通して、薬剤師に求められる社会のニーズを知ることができた。さらに、現状に留まることなく、より発展した業務の可能性や社会のニーズについても考えるきっかけとなった。

【コロナ禍における在宅での薬剤師業務について】

実際に在宅患者さんのご自宅を訪問することは出来なかったが、実際の患者さんのお薬カレンダーの作製を行い、在宅を新規で始める患者さんの資料作りを体験できた。

【日々の実習記録に対するフィードバックがモチベーション向上につながった事例】

指導薬剤師から前日の実習記録に対して、毎日フィードバックコメントをいただき、モチベーションアップにつながった。

【スポーツファーマシストの活動を深く学べた実習】

スポーツファーマシストとして活動している薬剤師がいる薬局での実習で、OTC 医薬品とアンチドーピング活動に関する実習を行うことができた。

【在宅・学校薬剤師などの地域における様々な薬局業務への参画】

コロナ禍の薬局実習であったが、指導薬剤師の工夫により、介護施設や老人ホーム、自宅への在宅業務、学校薬剤師・地域での薬剤師活動等の幅広い薬局業務に参画し、地域における薬局の重要性を体感することができた。

【コロナ禍においても医療現場で様々な学びと実践の機会の提供と学生の有意義な実習実践のための薬局、病院の連携方法について提示して頂いた事例】

今回、〇〇薬局と▲▲病院に協力をいただき、薬局実習前にオンラインで、薬局、病院の指導薬剤師、学生、薬局・病院の各担当教員の5人が、事前に顔合わせを行った。コロナ感染が拡大し、緊急事態措置実施下での薬局実習開始となったが、〇〇薬局においては、感染対策を確実にしながら、最初から最後まで現場での実習を実施させていただいた。また、オンラインミーティングでは、病院実習の指導薬剤師に、薬局における実習内容、特にがん、循環器、脳血管障害の症例が少ないため、この領域に関しては、病院実習で重点的に補うことが依頼され、5人全員が情報共有することができた。薬局終了後、開始前と同様にオンラインで同一メンバーが集まり、薬局での実習を振り返り、当初から薬局実習で十分に実習できないと思われた領域については、病院において症例に関わる機会を増やすなど補完すべき内容についても情報交換することができた。学生から直接実習について確認するだけでなく、担当教員からも実習中の取り組みについて、薬局へのフィードバック、病院指導薬剤師、担当教員への情報交換をすることができた。

学生の顕著な成長：

学生は事前に薬局での実習内容の概要を把握しており、また、継続する病院で、どのように実習が進むのかを確認できていたため、薬局における薬剤師の業務、患者との関わりについて深く理解できたものと考ええる。特に今回、学生の資質もあるが、実習からの学びと実践において問題意識を持ち続け、最後まで高いモチベーションを維持することができた。

【代表的8疾患へのかかわり】

実習で受け入れて下さった場所だけでなく、系列の他店舗にも実習機会を与えて下さって、学びきれていなかった8疾患について学ぶことができた。(糖尿病、リウマチ、透析、認知症)

【繊細な性格の学生への対応】

繊細な性格の学生の対応について、指導薬剤師の先生・実習施設の方々と適宜連絡を取り対応の方法を協議しながら実習を進めていただいた。

【様々な薬局業務への参画・学生のレベルに応じた適切な指導】

(学生 A) 薬剤師の仕事内容は勿論であるが、投薬のコツ、在宅のコツ、薬について、他にマナーなど広範囲にわたり教えていただいた。いろいろと制限がかかる中、多くのことを学ばせていただいた。「1 週目から 11 週目まで毎週何か新しいことを」と考えて指導をしていただいた。

(教員の意見) 必ずしも基礎学力に優れた学生ではなかったが、学生のモチベーションが上がるような各学生のレベルに応じた適切な指導をしていただき、学生も前向きに実習に取り組めた。薬局業務ならではの施設往診同行、担当者会議出席、在宅支援、そして積極的に投薬を体験させていただくなど変化に富む多岐にわたる体験型実習を実施いただいた。今年度は、3 期のみ受け入れであったが、可能なら全ての期で受け入れていただきたい。

【学生の個性に配慮した実習】

コミュニケーションが苦手な学生に対して、到達目標のレベルを下げることなく、試行錯誤を重ねて指導して頂いた。その結果、学生は実務実習に関するだけでなく、薬剤師を目指す者としての心構えを身につけるきっかけとなった。

【セルフメディケーション】

OTC の初回面談において、LQQTSEFA による手順により患者面談を行うことができた。

【多施設での実務実習】

今回恵まれたことに、多くの施設で実習を行わせていただいた（メインは皮膚科）。〇〇薬局さんでは漢方や学校薬剤師について学ばせていただいた。〇〇薬局さんでは小児科の処方や服薬指導、散剤の分包や水剤の分注などについて学んだ。〇〇薬局さんでは眼科の処方や眼科での検査について学んだ。〇〇薬局さんでは糖尿病の治療について学んだ。

【IV期実習の様子をIII期実習施設の薬局が週報を介して継続的にフォローした事例】

III期実習（東北地区でのふるさと実習）を担当した薬局（山形県）では、改訂コアカリに基づいて体験型実習と適切なフィードバックにより実習生の成長につながる効果的な実習をして下さった。さらにIV期の病院実習（山形県）の様子を、実務実習指導管理システム上の連携ツールである「一週間振り返り」のページで、実習生・指導薬剤師・大学教員のコメントを、薬局の指導薬剤師みんなで定期的に確認し、病院での実習生の成長の様子をフォローして下さっていた。

病院実習

—薬物療法の実践—

【外来化学療法を受ける患者に対する薬学ケアの実践】

実習初期から実習終期まで、外来化学療法を受ける患者への継続的な薬学ケアを実践し、がん患者の在宅での治療について深く学習することができた。

【外来化学療法を受ける患者に対する薬学ケアの実践】

外来化学療法を受ける患者への薬学ケアを実践し、学習することができた。

【継続的なかわり】

入院時から退院時まで1人の患者さんについて副作用の確認や症状、服薬指導まで様々な関わり方ができた。

【糖尿病患者におけるシームレスな服薬指導の実践】

高齢の1人の糖尿病患者における入院から退院までの服薬指導、および退院後の初めての外来での服薬指導に至るまで、インスリン導入から手技指導に関与し、高齢者のインスリン選択や手技指導の留意点をシームレスに学ぶことができた。

—医療連携の体験—

【グループ施設との連携による老健等の様々な施設での体験学習】

グループ施設との連携により、病院だけでなく老健、老人ホーム等の様々な施設での体験型学習を実施し、施設間の連携や施設職員の連携に関して深い理解を得ることができた。

【他職種との連携】

病棟やリエゾンチームのカンファレンスへの参加や外来化学療法室での実習から、病院薬剤師とその他の医療従事者や保険薬局との連携について学ぶことができた。

【「薬剤管理サマリー」を通じて病院から薬局への情報提供を学んだ例】

退院後の薬学的ケアを地域で継続するための情報連携ツールとして「薬剤管理サマリー」を作成することを学び、実習後に、「病院における吸入指導実習の際、かかりつけ薬局にも定期的な吸入指導を行ってもらうよう協力を依頼し、薬剤管理サマリーなどを利用した情報提供ができるのではないか」と自ら考察できており、薬業連携に主体性を持って関わる意識が芽生えていた点で、顕著な成長があったと考えられた。

—医療機関におけるチーム医療の実践—

【緩和ケアチームによる患者との関わり】

緩和病棟で実習を行い、緩和ケアは痛みの治療だけでなく、精神的なストレスや不安を取り除くことに重きを置いていること、患者だけでなくその家族や他職種との連携が重要であることを感じることができた。

【多職種による地域ケアの見学】

病院近隣にある系列法人が運営する包括ケアセンターを見学し、地域における多職種のチーム医療に関して見学することができた。

【チーム医療】

院内感染症に対する多職種連携で医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師などのチーム医療のカンファレンスに参加し、多職種連携の重要性を学ぶことができた。

【チーム医療における薬剤師の役割を実感できる実習】

様々なチーム（AST、DST、NST など）のラウンドに参加させていただいた。実際に学生がまとめた患者サマリーをカンファレンスで発表する機会などをいただき、各チームでの薬剤師の役割や協働の重要性を実感することができた。

—充実した実習環境と指導体制の構築—

【院内オンラインカンファレンス参加プログラムの充実化】

オンライン開催は、NST カンファレンス、腫瘍内科カンファレンス、リスクマネージャー会議、プロトコール審査専門部会などがあり、全ての学生が参加できた。

【継続的な患者へのかかわりを経験できた施設】

病棟では患者さんを初回から退院まで関わるることができた為患者さんの経過をじっくり観察することが出来学生の満足度が高かった。

【学生の能力を最大限にひきだすと共に、医療に貢献するチャンスを与える実習教育】

実習中に指導薬剤師の指導のもとで実習生の作成した医療用麻薬患者指導パンフレットが正式に採用され、きちんと製本された上で、病院での患者向け説明書として利用されている。これに加え、パンフレットの製作者には、「緩和ケアチーム、薬学部5年実務実習生」と併記してある。同じく実習生の作成した麻薬換算表が緩和ケアチームを構成する多職種間で利用している。

【同じ系列病院同士での zoom 講義や症例発表会の実施】

Zoom ではあるが、多くの症例を経験できた。

【ドクターヘリで運ばれてきた患者さんへの対応】

救命救急領域の一翼を担って働く薬剤師の姿を通し、高度専門領域における薬剤師業務を知る機会となった。

【コロナ禍での貴重な病棟実習】

実習開始から3週間～1か月程度は各病棟を半日ずつ見学し、入院患者の持参薬チェックを行った。以降は1病棟に時間をかけて深く関わり、チーム医療を間近で感じることができた。また実習生は病棟に行く事で、薬局実習では関わる事が出来なかった疾患や薬に関わる事が出来た。

【病院・薬局グループ】

2期終了後、学生によるWeb成果発表会前に薬局・病院の指導薬剤師さんによるWeb引継ぎ会を行い、3期受入れが急遽中止となった病院から事情説明があり、他施設の指導薬剤師さんも状況を把握出来て良かったとの事であった。

【オンライン面談によるフィードバック】

実務実習施設を直接訪問するのではなく、コロナ感染症の拡大状況に合わせて、適宜、WEB会議システムを用いて、面談・連絡等を実施した。WEB会議システムを用いた、大学・実習施設間の打合せや相談・面談においても、対面実施と比べて遜色なく行うことができた。

【リモート実習による効率化】

新型コロナウイルス感染症が拡大した場合は、リモート実習・自宅学習へスムーズに切り替えることができるよう、予め、大学・実習施設間で打ち合わせを行った。

【遠隔指導システムによるフィードバック】

実習生が所属する大学及び複数の病院と連携してWeb会議システムを利用して遠隔指導を同時に画一化した内容で実施した。各施設の指導薬剤師・学生・大学教員が参加のもと、毎週、ZOOMミーティング等を開催して報告会やフィードバックを行い、学生が持つ疎外感の緩和やモチベーションの維持に繋げることができた。

【実務実習生合同発表会】

通常、●●県病院薬剤師会では実習の終わりに合同の対面式発表会を行っているが、昨年度よりコロナ禍ということでzoomを用いたリモート合同発表会となっている。これにより、大学教員も参加が可能となった。我々教員は一部参加であるが2名が出席し、学生の実習成果をオンラインで聴講することができ、実りある発表会であることが確認できた。

【コロナ禍におけるICU,NICUでの薬剤師業務について】

コロナ禍のためICUやNICUに関わることは出来なかったが、その代替として、講義で実際に病院ではどのような業務をしているのか、ICUやNICUの患者さんの注射剤調製はどのように行っているのか手技を学ぶことができた。

【幅広い体験型実習ならびに確認試験による振り返りの実践】

ほぼ毎日患者に対する服薬指導の機会を設けていただき多くの疾患や治療に対して知識を増やすことができた。また夜間診療体験や手術見学ならびにチーム医療への参加による多職種連携を体験できた。6週目および11週目に確認試験があり、学んだことを口頭試問形式で振り返る機会があった。

【オンラインによる病棟における薬剤管理指導のシミュレーション実習の実践】

コロナ禍のため病棟実習が出来なかった代わりに、病院の指導薬剤師と大学の担当教員が協力して病棟における薬剤管理指導実習の模擬症例を作成して、Zoomを用いたシミュレーション実習を行い、病棟実習を補完した。

【新型コロナウイルスワクチン調製業務への参画】

院内の新型コロナウイルスワクチンの調製に参画し、ワクチン管理体制や院内の感染対策について学習することができた。

【薬薬連携を重視した実習】

病院Aと門前の薬局が共同で実習プログラムを策定し、実習生が薬局実習中に関わった症例について、病院実習時にも症例を追い、実習終了時に症例発表を行った。実習生からは、症例理解および治療に関する学びが深まり、薬薬連携の重要性を実感したとの感想があった。

【病棟業務の適切な指導および症例発表会内容の充実】

感染状況の推移に合わせて、学生の実習をスケジュール厳密に管理し、密に配慮した環境で実習を進めていただいた。また、ワクチン接種有無を考慮した実習スケジュールを組み立てていただき、個々にとって充実の内容となっていた。講義等はオンラインやオンデマンドを織り交ぜながら安全に進めていただき、院内の勉強会への参加も促し学習機会の確保に努めていただいた。指導薬剤師以外の指導も潤沢になされ、病棟では服薬指導のみならずチーム医療への参画や処方提案の経験も積むことができていた。電子カルテの閲覧時間も十分に確保していただき、時間をかけて病歴や薬歴、患者の自覚症状、肝・腎機能、その他各種臨床検査データなどの情報を取得し理解を深めている様子であった。

学生の顕著な成長：

症例発表会では、実習中に経験したことや学んだ医学的・薬学的知識を、自身の言葉で表現することの難しさを実感した様子を感じ取れた。一方で、そういった訓練を積むことで、深い理解と成長へ繋がっていた。質疑応答で答えられなかった点は、後で聴講者に向け回答を準備するなど、発表後の学習体制も確保されとても有意義な11週間であったと思われる。

【実習生を起点とした薬局・病院・大学の連携により、22週間の実習全体を通して「ポリファーマシー」という一つのテーマに取り組んだ実習生の成長】

第Ⅱ期薬局実習において、●●区ではその後病院実習を行う施設の指導薬剤師を招いた合同成果発表会を行った。その発表会に、第Ⅲ期病院実習施設である横浜旭中央総合病院の薬剤部長 亀村先生、澤木先生に御参加頂いた。その際の発表のテーマは「ポリファーマシー」であり、実習生が薬局実習を通して今後の薬剤師の重要なテーマの一つであると感じた事をまとめた物であった。第Ⅲ期病院実習でも継続してポリファーマシーに関係する患者が来院した際には積極的に実習生が関われる機会を与えて頂き、実習生

が薬局・病院の 22 週間を一つのテーマに関して取り組む事が出来た。病院実習での成果発表におけるテーマも「ポリファーマシー」とする事で実務実習全体を通して一貫したテーマでまとまりのあるプロダクトが作成できた。薬局におけるポリファーマシーと病院におけるポリファーマシーを比較する事や、退院時のシームレスな医療の提供など、実習生にとって多くの気づきを得られる素晴らしい実習になった。

学生の顕著な成長：

薬局薬剤師、病院薬剤師の両側面から「ポリファーマシー」というテーマに取り組む事で、ポリファーマシーを行う上での問題点や困難な点、薬剤師として関れる具体的なポイントなど様々な事を成果物としてまとめるに至った。また、患者背景に考慮した残薬管理の提案など、実践的な介入をする事が出来た事から実習生の大きな成長を感じられる。自身の将来の薬剤師人生においてどの様にポリファーマシーに取り組むのかという点まで、実習生が踏み込んで考察した事は顕著な成長である。

【薬の承認や特殊な薬の取り扱いに関する工夫】

コロナ関連の薬を例に、薬の承認や特殊な薬の取り扱いについて、実践的に学習することができた。

【フォームラリーへの関わり】

院内フォーミュラリを用いて薬剤の増量または追加の検討を実践できた。

【人生会議の体験】

架空の設定で自分が治療を受ける立場だったらどのような治療を受けるか考えたことを通して、安全安心な医療の本質について考える機会を得た。

【新型コロナ治療薬を用いた薬物治療の学習】

承認されたばかりの新型コロナ治療薬を用いた実際の薬物治療を学ぶ機会があり、新規治療薬の情報収集し臨床現場で活かす能力を身につけることができた。

【三期病院・薬局合同】

実習成果発表会の前に、病院・薬局合同の引継ぎ会を開催した。開催にあたり、地区病病連携の代表病院と薬剤師会会長、担当教員の三者で打ち合わせを行い、開催当日は Web 開催で、実習中の学生も参加し、実習に向けて病院・薬局・大学が連携していることが学生にも伝わり良い会となった。

【緊急事態宣言発令に伴うオンライン実習】

8 月中旬からの緊急事態宣言発令中の病院実習をオンライン実習により対応することができた。

【実習成果発表会】

例年、実習最終日に病院内で実施されている成果発表会が、今年度は Zoom を用いてオンラインで行われました。この開催案内を薬学部教員へ周知したところ、実習生の所属研究室の基礎系教員の参加がありました。基礎系教員にとっては病院へ行くことはハードルが高いと思われそうですが、オンラインだと参加しやすくなると考えられます。今後もハイブリッドで開催していただけると良いと思いました。

【実習施設側の工夫により全ての実習項目（病棟実習を含む）が臨地実習で実施できた事例】

コロナ禍のため病院実習であったが、実習施設側の工夫により、病棟での服薬指導実習を含めた全ての実習項目を臨地実習で実施して頂けた。そのため実習生は2019年度までの病院実習と同じような学修環境で充実した実習を行えた。

【他学部生との症例検討会】

遠隔的手法ではあったが、他学部生との症例検討カンファレンスがあり、職種間の症例の見方や考え方の違いなど学習することができた。

【脳血管患者への指導について深く学習できた事例】

脳出血および未破裂脳動脈瘤の患者さんの入院から退院までの間の経過をフォローしながら患者の服用アドヒアランスを向上できるような指導について深く考えることができた。

【他学部の学生とのチーム医療】

ZOOMを用いた遠隔で、医学部3名、薬学部1名、看護学部2名の学生たちとチームを組み、模擬の入院患者の治療について延べ5日間、討議を行うことができた。薬物療法以外の治療については分からないことがあり、難しかったようであったが、貴重な体験をすることができた。

【オンラインとのハイブリッドの実習】

薬剤部と病棟をオンラインで繋ぎ、実習生がカンファレンスやDM教室に遠隔参加することで病棟に行けない点を補うことができた。

【コロナウイルス濃厚接触者学生に対する対応】

実務実習中の学生が実習終了2週間前にコロナウイルス濃厚接触者となり保健所から14日間の自宅待機と指示があった。最後の2週間が病棟実習のまとめであったため、学生が実習をリアルで行いたかった旨を実習先の指導薬剤師に話し、病院側のご配慮により、実習期間を2週間延長し、報告会も行い実務実習を終了した。

【COVID-19 治療薬の調剤の実践】

COVID-19 治療において、IV期実習中に感染拡大したオミクロン株は軽症例が多く、通常の薬剤部内調剤業務において、治療薬であるレムデシビル100mg点滴静注の注射調剤や、モルヌピラビルカプセル200mg（瓶）の内服調剤を経験できたことは貴重な体験であった。また、COVID-19 治療法の変化について学習することができた。

【病院と包括支援センター、高齢者施設間連携の学習】

病院に隣接する関連の包括支援センター、老人保健施設、デイサービスセンターを見学し（感染拡大防止の観点から今期は見学のみ）施設や多職種の連携を学習することができた。

【精神科設置病院の見学】

実習先病院の系列の精神科設置病院を見学し、精神科関連の業務についても知ることができた。

【多様な専門性を持った複数の指導薬剤師による指導】

多様な専門性を持った複数の薬剤師の先生より指導を受けることができるため、多くの症例について学ぶことができた。

【工夫されたロールプレイ・リモート実習】

新型コロナ感染拡大により患者さんへの直接的な実習（服薬指導や初回面談など）は出来なくなったが、薬剤師の先生方が患者役をしてくださる等、現場と変わらない工夫を短期間で準備して対応してくださった。

リモート実習になってからは、症例報告のスライド作成のアドバイスや、その他興味のある分野の講義をしてくださった。

【オンライン実習の実施】

実習施設内で感染者が出た場合、実習生が家族の感染に伴い濃厚接触者となった場合などの際に、オンライン実習を活用して実習を継続するとともに、感染拡大防止を行うことができた。